

## 【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムで養成を目指す「地球資源工学グローバル人材像」は、①チャレンジ精神旺盛な行動力、②高度な専門知識と深い洞察力、③実践的コミュニケーション能力、異文化の相互理解、を備えた人材である。

## 【構想の概要】

地球資源工学分野で、日・ASEAN の学生が質保証を伴う3つの学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラムを九州大学および早稲田大学(日本)と海外の連携大学とともに共同開発し、本格実施することを目的とする。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### 【日・ASEANコンソーシアム】

「アジア重視戦略」を展開する九州大学と早稲田大学が、AUN/SEED-net プロジェクトを通して連携を築き上げたチュラロンコン大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学をASEANコア大学として他のASEAN 4大学に発展させた実質的な教育研究連携と交流が可能なコンソーシアムである。

### 【学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラム】

将来グローバルに活躍するために実践経験を積む「国際インターンシップ」、相互学生交流を強化する「スクールオンザムーブ」、高度研究者・技術者リーダーを養成するための「大学院ダブルディグリー」の質保証を伴う3つのプログラムであり、IEFWリーダー委員会がコース修了証を授与する。

### 【単位の相互認定や成績管理、学位授与のプロセス】

日・ASEAN大学コンソーシアム内にIEFWリーダー委員会と各大学にIEFW委員会を設置し、本プログラムの企画、実施、評価と改善、成績管理と学位授与の共同審査を統一して継続的に行う。

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

平成27年度  
サマースクール



【国際インターンシップ】 サマースクールによる事前教育、協力企業約40社を通じた現場でのフィールド調査の実施により単位を修得するプログラムである。平成27年度は、8月下旬にタイ チュラロンコン大学でサマースクールを行った。またインドネシア及びフィリピンへインターンシップ生を派遣した。

【スクールオンザムーブ】 連携大学間で約半年の事前教育、1ヶ月の移動型教育、最長3ヶ月の調査研究により単位を修得するプログラムである。平成27年度は9月-12月の期間にマレーシア、ベトナム及び日本の3カ国で行った。

【大学院ダブルディグリー】共同教材作成、ACTSを活用した専門教育科目の単位認定、論文研究の共同審査等を確立し、質保証を伴った学位を授与するプログラムである。平成27年度は8月からバンドン工科大学へ2名派遣をし、10月からガジャマダ大学から2名学生を受入れている。



平成27年度  
スクールオンザムーブ

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

【日本人学生の派遣】 平成27年度における「国際インターンシップ」は16名、「スクールオンザムーブ」は延べ人数44名、「ダブルディグリープログラム」は2名を派遣した。平成28年度は、「国際インターンシップ」15名、「スクールオンザムーブ」20名、「ダブルディグリー」2名の予定である。

【外国人留学生の受入れ】 平成27年度「スクールオンザムーブ」29名、「ダブルディグリープログラム」3名受け入れた。平成28年度は、「スクールオンザムーブ」20名、「国際インターンシップ」15名、「ダブルディグリー」3名の予定である。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	37	50	62	62	62
学生の受入	22	30	27	32	48

注)H24・H25・H26・H27は実績、H28は計画

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 【日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備】

教職員一体の支援組織としてCampus ASEANオフィスを設置し、全学組織である外国人留学生・研究者サポートセンター(ワンストップサービス)、キャリアサポート課就職相談室、留学生センター等と連携するとともに、日・ASEAN各大学にIEFW委員会を設置し、きめ細やかな修学指導、在籍管理、生活・就職支援を行っている。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

### 【情報の公開・成果の普及】

大学内・外のセミナー、会議、機関誌等で積極的にプログラム紹介や成果の普及を行っている。年間を通したプログラムの様子を事業報告書にまとめ、参加大学・省庁等へ配布している。毎年行われている地球資源工学の国際学会では、当プログラムのセッション等を設け、各国の学会参加者や研究者への本プロジェクトが周知され、様々な大学での取組等の情報交換も可能にしている。また国際インターンシップ協力企業や、サマースクール等の視察に協力してくれた各国の企業等へ成果もアピールしている。